

南アルプスを未来につなぐ会 令和4年度第1回理事会 議事録

年月日	令和4年6月17日（金）10：45～12：30	
場所	ホテルアソシア 3階駿府Ⅱ	
参加者	理事	<p>会長 山極壽一（総合地球環境学研究所長） 副会長 佐藤洋一郎（WEB）（ふじのくに地球環境史ミュージアム館長） 顧問 尾池和夫（静岡県立大学理事長） 秋道智彌（山梨県立富士山世界遺産センター所長） 小宮山花（WEB）（光岳山小屋管理人） 鈴木康平（十山株式会社代表取締役社長） 藺田靖邦（川根本町長） 竹田謙一（信州大学准教授） 辰野勇（WEB）（株式会社モンベル代表取締役会長兼CEO） 石塚浩史（静岡市長代理出席） 徳地直子（WEB）（京都大学教授） 中静 透（WEB）（国立研究開発法人森林研究・整備機構理事長） 中西友子（東京大学名誉教授） 中村太士（WEB）（北海道大学大学院農学研究院教授） 原田憲一（前至誠館大学学長） 松本亮三（東海大学名誉教授） 山崎宏（NPO 法人ホールアース研究所代表理事） 高野孝子（WEB）NPO 法人エコプラス代表理事（議事3以降）</p>
	事務局	<p>くらし・環境部 織部理事（南アルプス環境保全担当） くらし・環境部 田島理事（南アルプス地域連携担当） くらし・環境部 宮崎参事（南アルプス自然保護担当） くらし・環境部自然保護課 中山課長 くらし・環境部自然保護課 上家室長（司会） くらし・環境部自然保護課 小林班長 くらし・環境部自然保護課 伊藤主任</p>
内 容		
司会	<p>時間になりましたので、ただいまから令和4年度第1回南アルプスを未来につなぐ会理事会を開催いたします。</p> <p>開催に先立ちまして、本日の報道機関による取材について、皆様に御案内申し上げます。本日の理事会は公開で行いますが、マスコミの皆様におかれましては、会の運営に御協力をいただきますよう御配慮をお願いいたします。</p> <p>それでは早速ですが、本会を進めさせていただく前に、まず資料の訂正をさせていただきます。本日お配りをした次第の2枚目『出欠表』の11番清明理事の職名に誤りがありました。正しくは、『マネックス証券株式会社代表取締役社長』となりますので、ここで訂正させていただきます。</p> <p>次に、本日の出席者を御報告します。</p> <p>詳細は、本日御用意いたしました出欠表に代えさせていただきますが、全24名の理事等うち、この場にお越しいただきました理事及び顧問の皆様が10名、WEBにて御参加をいただいております皆様が6名、また、代理での</p>	

	<p>御出席が1名となっており、合計17名の御出席をいただいております。</p> <p>なお、知事につきましては静岡県6月県議会本会議中のため欠席となります。知事からは、欠席することをお詫び申し上げるとともに、皆様にはよろしくお伝えするよう言付けを預かっておりますことを申し添えます。</p> <p>それでは、開会にあたり、山極会長から御挨拶をお願いします。</p>
山極会長	<p>皆さんおはようございます。</p> <p>山極でございます。</p> <p>前は令和4年1月7日に開かれて以来、半年ぶりとお元気そうな顔で何よりだと思います。</p> <p>私は、今日、京都から参りましたが、だいぶ新型コロナウイルスの脅威も緩んできたと見えて、京都駅も雑踏でござりました。私の家の近くは、修学旅行生の旅館がたくさんあるのですが、朝は、もう最近、修学旅行生がかばんを引きずって歩く音が多く聞かれるようになり、観光客もずいぶん戻ってきたなという印象があります。</p> <p>南アルプスも夏をこれから迎えます。恐らくたくさんの方がやってこられるだろうと思いますし、南アルプスの良さをどんどん我々も伝えていけたらなと思っています。そのことについて将来の企画をこの会で立てられれば、様々な活動がこれから組み立てられていくだろうと思いますので、本日も活発な御意見をお願いしたいと思います。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは早速ですが、議事を進めてまいります。これからの議事進行につきましては、山極会長にお願いしたいと思います。</p> <p>それでは山極会長よろしくお願いたします。</p>
山極会長	<p>それでは、本日の理事会の議長を務めさせていただきます。</p> <p>まず、本日の理事会でございますが、12時30分終了を予定しております。皆様の御協力をお願いいたします。</p> <p>では、議事に入らせていただきます。</p> <p>まず、議事番号1『南アルプスを未来につなぐ会会則の改正』について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、南アルプスを未来につなぐ会会則の改正につきまして御説明をさせていただきます。</p> <p>資料の1-1を御覧ください。</p> <p>本会則につきましては前回、令和4年1月7日に開催されました本会理事会におきまして、主に新理事の就任方法について、新たに規定を盛り込む改正を行いました。</p> <p>今回、新たにいくつか会則を改正する必要性が生じたことから、現行会則第14条の規定に基づきまして、本理事会にて協議をいただくものであります。</p> <p>まず初めに、役員退任に関する事項です。</p> <p>今回、後ほど御報告させていただきますが、本会副会長兼理事でいらっしゃいます、大城和恵様から、本会副会長兼理事の任を解いていただきたいと</p>

	<p>の御希望がありました。</p> <p>しかしながら、現行の本会会則では、これについて手続き等に関する規定を持ち合わせていないことから、今回、新たに規定を設けるものであります。</p> <p>今回の改正では、辞任に当たっては、会長に届け出を行うものとし、理事会への報告をもって了承することといたしました。これは、本会の成り立ちが、本会の設立趣意に賛同いただき、発起人として名を連ねていただき、理事に御就任をいただいたうえで発足した会であることから、辞任に当たって議決事項とすることは、その設立経緯に照らし、そぐわないと判断したものです。</p> <p>続きまして、総会の構成員に関する事項です。</p> <p>現在、一般会員は約 580 名を数えるまでの規模となっております。現行の本会会則では、一般会員は、入会には会長の承認を得ること、退会には届け出を行うこととなっておりますが、基本的な考え方は、御本人の意思に従い、自由に入退会できるものと考えており、このことから、会費もいただいております。</p> <p>一方、現行の本会会則では、一般会員が総会への参画することと、総会において意思決定に関与する旨が規定されております。通常、組織における意思決定には、これに責任を負わなければならないことを踏まえ、一般会員については、先の通り、自由に入退会が可能な状況にあるなど、組織の意思決定に参画いただくにはその責が重いと思われ、それよりも、一般の会員の皆様には、個人の自由な想いに基づき、緩やかな形で本会の取組に参画、御活躍いただくべきであると考えました。</p> <p>このことから、この度、総会の構成員から一般会員を削除するものとしたしました。</p> <p>最後に、理事会構成員に関する事項です。</p> <p>顧問の理事会への招聘につきましては、現在、これに関する規定がありません。しかし、前回の会則改正により、理事会での意思決定範囲が拡大したことや、今後の本会の運営方針等を踏まえ、必要に応じ、顧問からの御意見、御知見をいただける体制を整備しておくことが必要であると考えます。このことから、会長が認めた場合に限り、御参加いただくことが可能となるよう、新たに条項を追加するものです。</p> <p>以上の内容を、新旧対照表でお示したものが資料 1 - 2、これを改正案として、要綱に反映させたものが資料 1 - 3 となります。</p> <p>説明は以上です。</p>
山極会長	<p>それでは、ただいまの説明について、何か御意見、御質問ございますでしょうか。WEB参加の方ももし御意見がございましたら、挙手をしていただければと思います。</p> <p>よろしいですか。それでは、ただいま提案のあった会則の改正案について、御同意いただけるでしょうか。</p>

出席者	異議無し。
山極会長	<p>それでは、本改正案については、承認とさせていただきます。</p> <p>続きまして、大城和恵様の副会長退任および本会理事の辞任について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、大城副会長の退任および本会理事の辞任について御報告をさせていただきます。</p> <p>大城様におかれましては、世界の山岳やこれらの利活用の現状等について、その広く深い御見識をいただいてまいりましたが、今回、御本人から副会長の任を解かしていただくとともに、本会理事について、辞任及び会からの退会をさせていただきたいとの御希望がありました。</p> <p>大城様は現在、山岳医療救助機構の代表を務められておりますが、御本人からは、本業である医療に関する業務が多忙を極め、医療に専念しなければならない環境に置かれており、このような状況では、本会にとって有意義な責任を果たすことができないため、大変残念ではあります。退会する意思を固めるに至りましたとの御連絡をいただきました。</p> <p>本会といたしましては、大城様の御意向について山極会長に御報告差し上げるとともに、ベースと登頂を含む世界の山岳事情や、その活用方法についての豊富な経験に基づく御知見を今後も賜りたい旨、複数回にわたり慰留を続けてまいりましたが、御本人の意思は固く、このたびの届け出に至りました。</p> <p>事務局といたしましては、これ以上無理にお引き留めすることは、御本人に対して失礼にあたる判断したことから、山極会長にもその旨を御相談を差し上げたところ、辞任について受理するよう御意見をいただきました。</p> <p>しかし、これに会則が対応しなかったため、先ほど会則改正案を提出し、承認いただいたところとなります。</p> <p>事務局といたしましては、ただいま御明を差し上げましたことを理由とし、本理事会へ御報告するとともに、大城様からの申し出の受理について御承認をいただきたいと思っております。</p> <p>皆様の御意見を賜りますようお願いいたします。</p>
山極会長	<p>私も直接お話をしてお話をして留まっていたくようにお願いしたのですが、御本人の意思は、お固いようでございました。</p> <p>先ほどの規則改正も、本人から辞めたいと申し出るという項目がございましたので、それを御承認いただいてから、皆様の御同意を得て辞任を了承するというにしたいと思っております。</p> <p>ただいまの説明について何か御質問、御意見ございますでしょうか。</p> <p>大変残念ですが、御了承いただけますでしょうか。</p>
出席者	異議無し。
事務局	<p>それでは、辞任を了承することといたします。</p> <p>続きまして、議事番号2『新理事の就任』について、事務局から説明をお願いします。</p>

事務局	<p>それでは、新理事の就任案について御説明をさせていただきます。 資料2を御覧ください。</p> <p>皆様御存知のとおり、本会の設立趣意は、南アルプスの自然環境、生物多様性を保全する様々な活動や適切な利活用を活発にし、もって南アルプスの自然環境をより良い形で未来につないでいくことであり、その趣意に御賛同いただきました皆様に、発起人として名を連ねていただくとともに、令和3年7月14日に開催した設立総会において、理事への就任について御了承いただき、現在に至っております。</p> <p>理事の選任におきましては、多様な分野を通じた専門的な知見をいただくべく、自然環境の保全から利活用など、幅広く、各分野の権威である皆様に御就任いただいたものと考えております。</p> <p>今回、御提案をさせていただく高野孝子様は、世界で初めて、ロシア、カナダ間の北極海をスキー、犬ぞりカヌーで無動力横断に成功された冒険家であり、現在は自然環境で自己を見つめ、生命の繋がりを感じる。異文化や地域社会で新たなもの、異なるものを理解し、尊重する姿勢を培うことを目的とするNPO法人エコプラス代表理事を務められておるほか、公益社団法人日本環境教育フォーラム理事やリーブ・ノー・トレース・ジャパン理事など数多くの団体等において、重要な役職に御就任されております。</p> <p>高野様には、地球的視野を持ちつつ、地域社会固有の価値感や自然と調和した暮らしのあり方に対する理解の重要性など、世界の自然環境を熟知された中で、その厳しさや美しさ、魅力や大切さ、その伝え方などについて、十分な御知見をお持ちであるほか、その方策に対するお考えについても、本会において、大変有益な御意見をいただけるものと考えております。</p> <p>このことから、事務局といたしましては、新たに高野様の本会理事としての就任について、皆様の御承認を賜りたく、今回提案するものであります。御協議のほど、よろしく申し上げます。</p>
山極会長	<p>ただいまの御説明のように、高野様はこれまで非常に輝かしい経歴をお持ちでございます。</p> <p>南アルプスのことを考えることについても、非常に多くの有効な御意見をいただけるものと思っております。</p> <p>この就任案について何か御意見、御質問ございますでしょうか。 はいどうぞ。</p>
秋道理事	<p>高野さんは良い方で、私は賛成です。</p> <p>それと関連するんですが、高野さんは一般財団法人全国山の日の評議員でしょう。ちょっと先走りのようですが、山の日の問題については、天皇陛下が山を趣味として登っておられるわけですね。</p> <p>そういう方との関係を、この会議がどう考えるのかというのを考えておいた方がいいと思うんです。というのは、私は山梨県で富士山に関係する職についていますが、皇室との関係を山梨県あまり考えていないんです。別に関係を作ったからどうというのではなく、やはり山のことをやる上で、天皇陛下のような存在も、川勝知事を含め、お考えいただいた方がいいのではない</p>

	<p>かという、これは単なる意見です。せつかく高野さんが入られるのでしたら、そういうパイプもあるだろうという期待感も持っています。</p> <p>以上です。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>あまり先走ってはいけないと私は思いますけどね。</p> <p>これも一つの御意見として伺っておきたいと思います。ただ、そういったことを初めから期待して、高野さんに入らせていただくのは、やはり失礼なことだと思います。</p> <p>御意見、ありがとうございます。</p> <p>高野さんが今、WEBに入られました。先ほど、秋道理事が少々無理難題をおっしゃったような気がしてるんですが、まずは新理事就任について皆さんに御納得していただいてから、御挨拶いただこうと思うんですが、他に何か御意見はございますでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>WEB出席者の方もよろしいですか。</p>
出席者	<p>結構だと思います。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、高野様に新しい理事への御就任について御承認いただけますでしょうか。</p>
出席者	<p>異議無し。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、高野さん、WEBにて御参加していただきまして、ありがとうございます。就任に当たり、一言御挨拶をいただきたいと思います。</p>
高野新理事	<p>高野です。皆さん、こんにちは。</p> <p>会場の皆様、本日はすみません。今日は、急に家族の入院がありまして、ちょっと対応しておりました。遅れて入ってまいりまして、失礼をいたしました。本当でしたらそちらの方にお伺いするつもりでおりましたが、今日はオンラインでの参加となります。</p> <p>今ほど理事をお認めいただいたとのお話ですが、お久しぶりの方と、初めましての方といらっしゃると思います。</p> <p>静岡県の小林さんに非常に熱いアプローチいただきまして、私にできることがあれば、お手伝いさせていただきたいと思っております。</p> <p>山に関しては、多少解るんですけども、南アルプスの地域や全体像に関しては、私にとっては全く無知、未知の世界でして、ぜひもう少し現場に行ってみてみたいなというふうに思ったりしているところです。</p> <p>去年からの議論もキャッチアップが出来ておりませんので、これからになります。少しずつ皆様から教えていただきつつ、参加していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
山極会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>大変力強いお言葉をいただきまして、今後、我々の仲間としてぜひ参加をしていただき、将来に向けて様々な活動、企画を打って出たいと思っております。</p>

	<p>ます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ここから先の協議につきましては、ただいま御承認いただきました高野理事にも参加していただいで進めていきたいと思ひます。</p> <p>では、議事番号3『本会の今後の取組み』について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは資料3をご覧ください。</p> <p>本資料は、前回1月に開催しました理事会において、皆様方からいただきました御発言、御意見及びその趣旨等について個別に確認させていただき、事務局がテーマごとに整理した一覧表となります。</p> <p>認知度向上に向けた取組みの必要性や、現地に足を運んでいただくための情報発信のあり方、有害鳥獣への対応や南アルプスの学術的検討の必要性、本会の運営方法や地域資源を活かした適正な利活用の方向性の検討の必要性など、多岐にわたり様々な御意見をいただいたところであり、そのどれもが今後の南アルプスをより良い形で将来に引き継いでいくために必要なものであると改めて認識しているところです。</p> <p>これを受け、事務局といたしましては、具体的な取組みを進めるに当たり、本会の取組方針をまとめておきたいと考え、この案を作成しました。</p> <p>資料4-1を御覧ください。</p> <p>まず、本会の目指す方向ですが、理事の皆様御意見を総括いたしまして、南アルプスをより良い形で未来に引き継ぐため、科学的な知見に基づき、環境保全を進めながら利活用促進する仕組みである『(仮称)南アルプスモデル』の構築に向け、全体構想の策定及び必要な取組等に関する提案を行うなど、シンクタンク的な役割を担うとさせていただきたいと思ひます。</p> <p>ここで、ただいまお話させていただいた『(仮称)南アルプスモデル』につきまして御説明させていただきます。</p> <p>資料4-2、横長のフロー図を御覧ください。</p> <p>南アルプスに関する取組には、既存の組織・団体である、県内市町等で組織する『南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連絡協議会』のほか、関係3県10市町村の広域組織である『南アルプス自然環境保全活用連絡協議会』に加え、地元や、現地で活躍いただく住民や企業、NPO、ボランティアの方々などの存在があり、これらの皆様、それぞれが持つ役割に応じた取組を進めていただいでいるところです。</p> <p>県では、南アルプスの自然環境をより良い形で将来へ継承することを念頭に、これらの組織・団体が同じ方向を見据え、また連携し、科学的な知見に基づいて、南アルプスの自然環境の保全を進めながら、利活用を促進する仕組みが必要であると認識を新たにしたところであります。</p> <p>このことから、これを推進していく仕組みを『(仮称)南アルプスモデル』と称し、各種取組を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>これまで県では、令和3年7月に発足した本会とはじめとし、令和4年2</p>

月には『南アルプス学会』を設立したところであり、さらに本年8月には『(仮称)南アルプスみらい財団』を設立を予定するなど、それぞれがそれぞれの役割を担い、共通の目的に向けて、既存の組織と連携し、取組を進めていきたいと考えております。

それでは、もう一度資料4-1にお戻りください。

具体的な取組概要について御説明します。

大きく4つの事項に整理させていただきました。

まず、(1)として、まず南アルプスの魅力の明確化を行うべきとの御意見を反映し、南アルプスが持つ魅力や地域特性がどのようなものであるか確認することから始めることといたしました。

(2)では、発言を単に議事録に残すだけでなく、集約し、外部に分かりやすい形で発信すべきである。また、自然環境の保全と利活用のバランスを検討する上で、共通の将来像描き、必要な体制を整えて進めるべきである。との御意見を踏まえ、全体構想の取りまとめと、関係機関との共有を図るといたしました。

(3)では、描く将来像への工程表作成し、優先順位を考えて進めるべきであるとの御意見を踏まえ、短・中・長期的な取組の整理や、関係機関との情報共有を前提とした実施とさせていただきました。

(4)では、取組を進める上で、新たに発生してきた課題への対応を想定し、改善対応策の検討とさせていただいております。

次に、本会が行う具体的検討事項案についてです。

まず(1)、仕組み及び連携体制の構築についてです。

先ほども御説明させていただきましたように、外部に分かりやすい発信を目指し、理事から出された意見等を集約し、南アルプスの保全や利活用に関する提案書等を作成するとともに、更新し、蓄積を図ります。

また、科学的エビデンスの蓄積の必要性と、多くの御意見をいただいた調査研究に関わる部分につきましては、後で御説明させていただく南アルプス学会の役割と大きく重なる部分がございますので、これとの連携を促進してまいりたいと考えております。

さらに、具体的なアクションを起こせる機動的な組織を設置すべきであるとの御意見を踏まえ、本年8月に設立を予定している『(仮称)南アルプスみらい財団』との連携を促進してまいりたいと考えております。

また、環境意識の啓発のため、欧米では当たり前となっている、利用者や関係事業者が受益者として保全経費を負担する仕組みを南アルプスでも取り入れたいと考えており、その構築について検討を行ってまいりたいと考えております。

続いて(2)、南アルプスの持つ魅力及び地域特性の確認についてです。

こちらにつきましては、未来へ伝えるべき景観、自然環境など、現在も認識されている価値の保全に加え、さらに、新たに創出される利活用も意識したフィールドとしての価値や、科学的・文化的に新たに発見された学術的価

	<p>値なども意識し、次回以降の理事会で御検討いただきたいと考えております。</p> <p>最後に（３）、全体構想の検討についてです。</p> <p>南アルプスの将来的な自然環境の保全、魅力の発信、利活用の推進に関する全体構想、いわゆる『グランドデザイン』の策定に向け、検討を進めたいと考えており、その内容等につきましては、次回以降の理事会で御議論いただきたいと考えております。</p> <p>関係機関の連携イメージにつきましては、改めて、先ほどの資料４－２を御覧ください。</p> <p>静岡県における『(仮称)南アルプスモデル』の推進に関するそれぞれの役割案としてフローでまとめてございます。</p> <p>『(仮称)南アルプスモデル』の構築に関する各組織団体関わり方についてお示しをしております。</p> <p>先ほども御説明をさせていただきましたとおり、本モデルの構築に対しは、県が下支えとなり進めてまいりますので、皆様の御理解をいただきますとともに、忌憚のない御意見を頂戴できればと考えております。</p> <p>説明は以上です。</p>
山極会長	<p>説明ありがとうございます。</p> <p>南アルプスモデルを作るというのが、本理事会の目標であるということでございます。</p> <p>この資料４－２を見ますと、我々の会が真ん中にございまして、それを取り巻く様々な団体が立ち上がり、またこれから立ち上がろうとしているということで、こういった団体とどのように繋いでいくのか、そして、その団体の活動を支えるべく、南アルプスモデルをどのように作っていくかというのが一番大きな課題になるだろうと思います。</p> <p>ここで、佐藤副会長が１２時頃に退席をされるというアナウンスが入りました。佐藤副会長、南アルプス学会の会長になりましたね。ここで南アルプス学会の概要について、佐藤副会長から、少し説明いただければと思うのですが。</p>
佐藤副会長	<p>分かりました。皆様、佐藤ですどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>今日の資料の中では、資料４－３がありますので、これに沿って簡単に御説明をさせていただきたいと思っております。</p> <p>『南アルプス学会』というのは、今、山極会長のお話にもありましたように、この南アルプスモデルの中で、特にその学術的な、今の言葉で言いますとエビデンスですね。それを集積して、それに基づいて諸々の活動をしていただくための、基本的な下支えの資料を作ることが本学会の使命だというふうに考えておりました、先日、その委員会を開催し、議論を深めたところであります。</p> <p>概要につきましては、ここにあるとおりでありますけれども、今年度、特に、私どもとして力を入れたいと思っておりますのが、ひとつは先行研究をしっかりとアーカイブ化していくということが重要であると考えております。</p>

	<p>それから、もうひとつの大きな柱が、南アルプス研究をきちんとした学術的な立場からやってくれるような方が現在は全く居ない状況になりつつありますので、そのような方をどのように支援・育成するのかということで、その具体的なひとつの措置として、特に若手研究者を発掘するための研究助成をするためのモデルを検討しております。</p> <p>上手くいきましたならば、10月ぐらいには公募をいたしまして、来年の4月から助成を始めるということを考えております。</p> <p>研究の方向といたしましては、当初は自然科学的な研究に重きを置いたプランが出ていたのですが、この南アルプスを未来につなぐ会の活動もそうでもありますけども、南アルプスというものが持っている特性を考えますと、やはり人文科学的な研究であるとか、それから在野の方ですよね。在野の研究をしていらっしゃる方々をどのように上手くこれにお入りいただくかということもありますし、そういう文理融合的でもあり、かつ、今の言葉で言いますと、超学際的と言いましょか、必ずしもアカデミッシュンではない人々の参加を求めていく。その上で研究助成を進めて、こういうエビデンスを集積した上で、それに基づいて、南アルプスを未来につなぐ会として活用いただくと、そういうようなことを考えております。</p> <p>簡単ですが、差し当たっての御説明に代えさせていただきます</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは事務局からの説明、そしてただいま佐藤副会長からの南アルプス学会の御説明ついて、御質問、あるいは、これから南アルプスモデルを作る上で、何か御意見がございましたらぜひお願いします。</p>
松本理事	<p>意見というより質問なんですけど、南アルプス学会の概要のところ、資料4-3ですが、2の概要のところの黒いポチの5番目に研究会台の審査とありますが、これは研究課題の間違いでしょうか。</p>
事務局	<p>課題の間違いです。</p>
松本理事	<p>分かりました。</p>
山極会長	<p>事務局修正をお願いします。</p> <p>他に御質問ありますでしょうか。</p>
竹田理事	<p>信州大学の竹田でございます。</p> <p>資料4-1の取組方針書案の2の(3)には、優先順位を検討して、関係機関との情報共有の上というふうになっておりますが、3の本会が行う具体的検討事項案では、その関係機関との情報共有ところがあまり具体的に明示されていないように思います。</p> <p>各理事の方も御存知のように、この南アルプスは3つの県に跨っております。そういった中で、静岡のみならず、山梨、それから長野、そういったところとの具体的な情報共有、それからまた別のところで議論があるかもしれませんが、私自身はその食害調査に関わっている中で、それぞれの県で別の手法で研究調査がなされております。そうしますと、全体を統一した同じ物差しでの評価ができませんので、将来的な南アルプスモデルというのを今後検討していく上で非常に重要な点ではないかなというふうに思っております。</p>

	<p>ます。先ほど、事務局からの御説明にも、静岡県における南アルプスモデルの構築というお話がございましたので、ぜひそこは、静岡のみならず2つの県（山梨県・長野県）を含めた形での情報共有しながらでの全体的なモデルの構築ということを御検討いただきたいなというふうに思います。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>全くその通りだと思います。とりわけ国立公園というのは、複数の県に跨ることが多くて、これは南アルプスに限ったことではないのですが、行政単位が県で分かれているものですから、どうしても施政方針が県ごとに違う。</p> <p>しかし、例えば、研究者の側からすれば、それはもう全て一緒のものであって、どうやって保全していくかとか、あるいはどうやって利活用していくかというようなことについては、県境を跨いで考えなければいけないことでもあります。例えば、観光客は県境を意識していない方の方が多いと思いますね。</p> <p>ですから、ぜひこの情報共有だけではなくて、静岡県の南アルプスモデルということに拘らずに、できれば将来的には3県に跨がって共通のモデルを構築できるような働きかけをしていく方が良いだろうと思いますが、事務局、何か方針がありますか。</p>
事務局	<p>竹田理事から御指摘いただいたとおりだと思っております。</p> <p>今回御指摘のありました内容を改めてもう少し資料に反映させていただきます。</p>
山極会長	<p>他に御意見ございますでしょうか。</p>
秋道理事	<p>今の御意見と関連するんですが、南アルプスと言っても、中央構造線とフォッサマグナみたいなジオロジーのレベルからベジテーション（＝植生）の問題と、鳥のように移動するもの、哺乳類もそうですけども、それから河川で言えば、大井川水系ですよね、大井川だけで良いのかとなると、富士川などはどうするのかということにもなり、私はあまり話を広げすぎるのもある意味で反対なんです。</p> <p>というのは、研究でいくら何を考えてもいいんだけども、お金の問題で研究会を開くとか情報共有しましょうと言えば問題なので、佐藤副会長が中心となっている南アルプス学会が、近い将来、近未来で科研費、とにかく国の中心的な課題があつて、何億円という金額を勝ち取るのは現在では色々な意味で難しいかもしれないので、いろんな分野で、自然文化を含めて、科研費を取るような時に、ここにいらっしゃる皆さんも上がったと、さっきの御意見にあつたように、関連する人と連携して、科研を出すような取組への水面下での動きみたいなものを、ある程度考えておいた方が私は良いのではないかと思います。</p> <p>つまり、ここだけの独立採算で全部できると考えない方がいい。絶対そう思いますので、これは静岡県の方々に、注意喚起です。本当に成功させたいのであれば、色々な手法を使わないと。そう簡単に国の政策のようにはいきません。</p>

	<p>ですから、そこを皆さんと協力してやりましょうという気が私はしています。これ意見です。</p>
山極会長	<p>こういうことについては、色々な意見があると思いますが、佐藤副会長御自身は『ふじのくに地球環境史ミュージアム』の館長でいらっしゃいますね。これは県立ですよ。</p>
佐藤副会長	<p>今の御意見を全くごもつともでありまして、学会の方としても、南アルプスのこの研究課題を静岡県だけに絞るつもりはありません。恐らく学術的に意味のないことだと思います。そういう点では、やっぱり3県（静岡・山梨・長野県）を含める、場合によっては将来的にはもっとあの遠いところとの比較研究というのもありうるかというふうに思っておりますので、そこは柔軟に考えたいと思っています。</p> <p>秋道理事の御意見ですが、これも南アルプス学会において議論になりました。</p> <p>つまり、この南アルプス学会で支援をする県事業というのは、将来的にはどこに行くかということ、ひとつは、南アルプスを未来につなぐ会の色々な活動に利用していただくということ。もうひとつは、学術的に南アルプス学という学問を構築していくという狙いを持っておりますので、そこはゆくゆくは色々なバジェット（=予算・運営経費）を取りにいく。南アルプスみらい財団とも協力をしながら、そういう道を模索したいと思っております。</p>
山極会長	<p>ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。</p>
辰野理事	<p>前回申し上げたかもしれませんが、今おっしゃるように、まず山はひとつの県でまとまらないっていうのはおっしゃる通りだと思いますし、利活用の面で少々申し上げたいのですが、私どもの方で、ここ数年間、ジャパンエコトラックという取組をしてみました。これは、エコな手段を使って日本国中を旅をしようというものなのですが、現在23のエリアが登録されております。残念ながら静岡県の方には全くエコトラックが無いんですけども。</p> <p>こういったところに加盟していただいて、また、これは環境省の方でも国立公園の利活用などということを非常に熱心にやられており、環境省にも後援していただいている取組となっています。</p> <p>要するに、環境を考えながら山を利活用することで、過剰な、過度な開発は避けるという取組であり、過度な開発に携わってるようなところには、加盟いただけないなど、一応ハードルがそれぞれ設けられています。</p> <p>また、我田引水の話で申し訳ないんですけど、私どもモンベルクラブには106万の会員がいます。この106万人の会員の皆さんは、非常に環境に対しての意識の高い方々ばかりですけど、ユニークで、そういう方々とのアクセスができるという環境の中で、こういった方々に対して、その地域地域の自然をいかに守りながら活用していくかという専門家という位置づけにさせていただきます。</p> <p>本日は、徳地先生も御参加ということですけど、2020年に京都大学との間で包括連携協定を結び、徳地先生を中心に『山の健康診断プロジェクト』ということで、モンベルクラブの会員に対して、山に行ったときに、その山の</p>

	<p>水を採取し、持って帰って大学の方で研究、『健康診断』をしていただくという取組も開始しました。</p> <p>多くの方々が参画してやっていただくということで、静岡県ということにとどまりません。日本国中全体でやるわけですけど、こういったことに対しても、ぜひ御理解いただいて、御参画いただければいいかなというふうに思いました。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>外部資金といってもいろんな種類があるんですね。</p> <p>先ほど秋道理事がおっしゃられた科研費というのは、国が出す基礎研究のための資金で、これは研究者がチームを組んだり、個人で申請するものです。</p> <p>一方で、例えば今、辰野理事がおっしゃったように、企業がいろんな取組をしていて、そこに研究者が入るといった試みも日本全国たくさんあります。</p> <p>どういう形のものか望ましいのかということについて議論していかなくてはいけないんですけども、この理事会でいろんな活動に制約をかけることはしたくない。</p> <p>ただ、ここは県が発議してできた会でもありますので、例えば、事務局にお聞きしたいんですが、南アルプスみらい財団というのは将来的にどういう財団になっていくんですか。</p>
事務局	<p>まだこれから発足ということで、具体的な話はこれからなると思うんですが、基本的には今まで議論する場とか、色々な取組を単発的に企画するといったことはあるんですが、実際に現地に常に人が入って南アルプスを状況を常時つぶさに監視したり、その変化を確認して、それを外に伝えたりという、そういった機関のようなものが今まで無かったものですから、現場に根を生やして、それを外に伝えていくために必要な具体的取組をしていくというのが基本になると思っております。</p>
山極会長	<p>ですから、今、秋道理事や辰野理事がおっしゃったように、色々な資金を持ってこの財団に参加をしてくるようなことは歓迎なのですか？それとも、それは除外されるようなものなんですか？</p>
事務局	<p>今のところは、一般財団法人という形で立ち上げますけれども、将来的には公益財団法人を目指すということになっております。そうなれば、企業様ですとか、その他、様々な方々から助成をいただきまして、その事業活動範囲をで広げて取組を進めていけると思っております。</p>
山極会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>公益財団法人化を目指すということですから、これからいろんな可能性が考えられますよね。多分その持続的にこの南アルプスモデルを作っていくとすれば、秋道理事あるいは辰野理事がおっしゃったように資金面でも、人材面でも、様々な取組を考えていかなくてはならないだろうと思います。</p> <p>とりわけ、南アルプス学会では、若手研究者等の人材育成というものが入ってますから、おそらく高校生とか、あるいは小中学生などが、この南アルプスという地を生かして、将来を担う世代として育ててくれるような活動もその中に入れていかなくてはならないと思うんですね。</p> <p>この構想を取りまとめろということですから、色々な御意見をいただきな</p>

	<p>がら、原案、たたき台を作っていきたいと思っております。 他にございますか。</p>
<p>原田理事</p>	<p>ただいまの外部資金の問題ですけれども、3県に跨がるようなプロジェクトだと行政の力が大きいので、その調整だけですごく時間かかる。だからもっと紐のつかない資金を集めてやった方がフリーハンドでやれるわけです。</p> <p>私は、2007年に発足した『京都伝統文化の森推進協議会』に入っているのですが、それは清水寺や青蓮院さん祇園商店街振興組合などが、東山の植生が荒れて景観が悪いので、自分たちがお金を出すから市が事務局を引き受けてやってくれないかということで、もう15年やっています。東山の景観を守るためにお寺さんが年間に800万円出しているのです、これまでに1億円くらいかけてるんです。それで10年間の活動記録を出版して、これからどうやっていくかというときに、ひとつはクラウドファンディングですね。東山の景観を守るために、これだけの活動をやっているということをもっと全国的に知ってもらおうということでクラウドファンディングを積極的にやっています。</p> <p>もうひとつは、京都には外資系の高級ホテルが次々と来ています。南アルプスもそうだと思うんですけど、そういうホテルは京都の東山とか京都三山を借景に使っているわけです。では、借景だったら借賃を出せと、つまり景観を借りるのであれば、それなりの対価を払えということなんです。</p> <p>ですから、上高地にしてもどこにしてもですね、日本の自然景観を売り物にする高級ホテルは、やっぱり借賃を払うべきなんです。</p> <p>外国の観光客たちもドネーション（寄附）すると。一晩何十万円もかけて泊まるような人たちにとって、景観保全のために100、200ドルは大した金額じゃないわけですよ。それよりも自分たちが楽しんでいる景観を未来に繋ぐというビジョンの方が大切なわけです。</p> <p>ですから、まずクラウドファンディングで国内世論を喚起して、こういう活動を3県が中心になってやっているので、3県の観光業者の方もやってくれという形で持っていったらいいんじゃないかなと思いました。</p> <p>もうひとつは、南アルプスを未来につなぐ会というわりに、若者の姿があまりにも少ないですね。</p> <p>昨日、一昨日とNHKで若者の政治参加が非常に少ないので、どうしたらいいかという番組をやっていました。高校生から大学生ぐらいの年代の若者、それもギャルとか若手芸人などにアイデアを出してもらったのですが、彼らは真面目に考えているんですね。もちろん南アルプス学会のような学術的なことは苦手でしょうけれども、どういうイベントが欲しいかとか自分たちはどこに価値感を見いだしているかとかは得意です。未来の担い手である仲間の声を何とか引き上げてくれるでしょう。これが、小学生、中学生だと、先生が右といえば右でやってくれるんですけど、それが長続きするかどうか分からない。だけど、選挙権を持つ学生や若者たちが興味持てば、それは県政なり国政にも反映していくでしょう。そういう若い方々の巻き込み方</p>

	<p>を何とか、将来的には考えていただきたいと思います。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>確かに京都は外資系の、もうすごい高級ホテルが立ちつつあって、一泊40万って聞きましたけど、しかも借景にしていますからね。とんでもないなっていう気もしますけども、クラウドファンディングは、非常にいいアイデアだと思います。これ、事務局、クラウドファンディングなんか考えてますよね。</p>
事務局	<p>まだ具体的には考えておりませんが、例えば、ちょうど今日のニュースであの法隆寺がクラウドファンディングを立ち上げて、何か目標2,000万円のところが本当に短期間で、それをオーバーする金額が集まったというようなニュースも聞いております。ですから、例えば山小屋ですとか、登山道であるとか、トイレの問題とか、課題はたくさんあるものですから、そういったものを上手に活用させていただければ非常に良いアイデアだと思います。御提案ありがとうございます。</p>
山極会長	<p>小宮山理事、山小屋を経営していく上で、クラウドファンディングとかやったことありますか。</p>
小宮山理事	<p>今年初めての営業になるんですけれども、やはり最初資金が甘かったので、今年は、事前宿泊券というのを購入していただきました。クラウドファンディングも考えたんですけれども、それはいざというときにやろうと。</p> <p>例えば今、先ほどお話ありました、登山道整備を大々的にしなきゃいけないとか、そういったときにやりたいなと思ってるんですけれども、今年に限っては、私が手を挙げて管理人をさせていただくことになったので、できる範囲の中で資金調達をしたいなと思い、事前宿泊券というのを購入いただいて、決して多めにはいただかないんですけれども、1泊2食分の料金をいただきまして、山小屋に着いたら、ちょっといい飲み物をサービスしますというようにやっています。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私が知ってる限りは、例えば鹿児島県の屋久島では、トイレの整備が大変なので、つまり、世界遺産になってからものすごい数の観光客が押し寄せて、登山道はとにかく大行列になって、トイレが溢れてしまったということもあって、そのあたりの修理整備ということについて、クラウドファンディングというよりは、観光税という形でお金を徴収したりしてきました。</p> <p>そういうことも考えていかななくてはならないと思えます。それをやるには行政の力が必要なので。勝手に個人がやるわけにはいきませんから。</p> <p>ですから、そういう意味では財団とか県の事務局があるということは、大きな力になるかもしれません。今後どのようにやっていくのかということは、非常に重要だと思います。</p> <p>他にご意見ございますか。</p>
松本理事	<p>この南アルプスモデルというこの言葉に関してなんですけども、モデルというふうに言いますと、これは何かに対するモデルというふうに考えるべきだと思うんですね。</p> <p>南アルプスはその何らかのものの標準になるのであれば、例えば、この資料の4-2にありますような『科学的知見に基づき環境保全を進めながら利</p>

	<p>活用を促進する仕組み』ではあるんですけども、これは南アルプスだけのものではなくて、国立公園、山岳地帯の国立公園であるとか、あるいはエコパークであるとか、そうしたものの環境保全のモデルとして使えるようにするんだと。そういう意味でこの『モデル』という言葉を使ってらっしゃるのであれば、そのあたりを明確に書いておく方がよろしいんじゃないかと思いました。</p> <p>前回の理事会においての議論の中でも私も申し上げたと思うんですけど、他のエコパークの取組等との連携を図っていく必要があるだろうという、そうしたことも念頭に置きながら、このモデルというのはそうしたエコパークの、あるいは国立公園の利活用のモデルとしてなるようなものをここで打ち立てていくんだ。南アルプスにとどまらずという。自己完結するものではないということを書かれておかないと、このモデルというものの意味が分からなくなると思うんです。</p>
山極会長	<p>事務局、そのことについて何かありますか。</p> <p>南アルプスモデルというのは、『南アルプスにとどまらず』、科学的な知見に基づき環境保全を進めながら利活用を促進する仕組みであると考えてよろしいですか。</p>
事務局	<p>ただいま御指摘いただきましたように、まさにここを出発点にして、水平展開というか、それが広がっていくようなことを目指したいと思っております。</p> <p>具体的にここにいう意味ではないんですが、先ほどから御指摘のありますように、南アルプスと言いましても、静岡だけではなくて、もっと北部地域、要するに長野とか山梨とか、そういったところもございますし、他の国立公園などにも、こういった取組が広まっていくように、という思いを込めたつもりであります。もう少しこのあたりが明確になるように、ちょっと考えさせていただきたいと思っております。</p>
山極会長	<p>そのあたり、特に南アルプス学会では、南アルプス学をやる明記してますから、その科学的な知見というだけではなくて、『南アルプス学に基づき』というところがあるんじゃないかなと思いますけど。</p> <p>佐藤副会長、何かそのあたり御意見はありますか。</p>
佐藤副会長	<p>南アルプス学会としては、南アルプス学という学問を構築するということですから、差し当たってのゴールは、南アルプスという限定をつけたいと思っております。ただ、南アルプスのどこを設定するかという問題はありますけども、この学会としては、色々ある地域研究の一つとして『南アルプス学』というものを構築するというふうに考えています。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>その上で、モデルと言うからには、一体何のモデルなんだということは明確にしておかなくてはならない。松本理事の御意見はごもっともだと思いますので、そのあたりを明確に、少し文言を考えていきたいと思っております。他に御意見ございますでしょうか。</p>
山崎理事	<p>資料4-2の横長のカラーの資料を見ると、南アルプスみらい財団ができて、南アルプス学会も設立されて、何か骨組みができたかなというふうに拝</p>

	<p>見しました。</p> <p>資料4-1の取組方針書の一番最後、(3)全体構想の検討で、これが次回以降での協議となっていて、恐らく具体的なところがまた示されるのかとは思いますが、多彩な先生方もお集まりですので、この手の全体構想の構築ってなかなか時間もかかりそうな予感がしますし、どのあたりに視座を置いて作るのかということにおいても、大きくアウトプットが変わってくるかなというように思いますので、もし事務局の方で、こういう形で進めていくという、現時点でのおぼろげでもいいので、イメージがあれば教えていただきたいのと、今日終わった後でもいいので、何かこの手の全体構想に今まで関わったことがある先生がいらっしゃったら、こういうものの進め方とか、こういう視座で進めるといいんじゃないかというアドバイスみたいなものもせっかく多彩な人たちが集まっていますので、アイデアを事務局に届けるというのもいいんじゃないかというふうに感じました。</p>
山極会長	事務局、何か回答はありますか。
事務局	<p>この全体構想につきましては、本当にこれだけの南アルプスの全体構想を描くというのはかなり大変かなということは考えております。</p> <p>ただ、将来的に、かくあるべきではないかというような、皆さんの御意見をまずはいただいた中で、具体的に実現できる部分と、将来に渡ってかなり時間がかかるものというものを整理しながらまとめていく必要があるんじゃないかと思っております。</p> <p>行政でありますと、例えばこれを1年以内に決めましょうというような形になるんですが、ここはじっくりと皆さんに本当に議論していただいたうえで形にしていければと。さらに、形を作ったあとに、補完的にまた色々な意見が出てくれば、これをどんどん修正していくような、そんなイメージでもいいのではないかとこのように考えております。</p>
山極会長	<p>今の事務局の姿勢は非常に不十分であると私は思っているんですが、全体構想というのは、例えば資料4-2にあるように、この5つの機関がどのように連携してやっていくのかというような構想だと思うんですね。</p> <p>例えば、資料4-1の2取組概要の(1)に書いてある『南アルプスが持つ魅力や地域特性がどのようなものか確認する』。これを一体どこがやるのか、恐らく南アルプス学会だとは思いますが、この成果がすぐに出てくるとは思いません。しかし、そういった南アルプス学会の御意見や御提案というものを尊重しながら、どういう保全対策を推進していくのか。保全をしながらそれを利活用していくために、例えば辰野理事のような御提案があれば、どこが窓口になってそれを推進していくのか。というような仕組みを考えるということだと思うんです。</p> <p>南アルプスという大変大きな資源を我々は持っているわけで、それをどういうふうな形で将来に残すのか、残すと同時に、それを将来の世代にどう繋げていくのかという大きな構想、仕組みというものを、このあらかじめ提示された5つの団体でどのようにやっていけるのかというプランを練ることだと思うんです。細かな、これはどう、あれはどう、というようなことではないだろうと思います。</p>

	<p>そこをきちんと合意しておけば、どういう形でやればいいのか、特にその事務局に集めていただきたいのは、南アルプスという大きな個性ある資源を我々が手にしているわけですが、他のところ北アルプス、中央アルプス、あるいは北海道の知床だとか、あるいは白神山地だとか、様々な山を含んだ場所があって、そこでの取組事例というものをなるべく多く集めていただいて、我々はそれを参考にしながら、この南アルプスの自然に沿ったやり方というのを構築していく。それが必要だと思うんですね。</p> <p>ですから、その何もないところで構想を練るように言われても、なかなか大変なので、まずは事務局に色々な資料を集めていただいて、それを横目で見ながら、考えていくということをしなければいけないだろうと思います。他にいかがですか。</p>
<p>辰野理事</p>	<p>やはり経済的な資金というものは避けて通れない話だと思うんですね。そんな中で、どういうところにお金をかけていくかということ、それから、どういう形でお金を集めるかという、この2点だと思うんですね。</p> <p>それで、まずひとつは、南アルプスという山の魅力を知ってもらうためにはまず足を運んでもらわなければならない。</p> <p>そのためには、アクセスの問題、それからトレイル(=森林などにある歩くための道)とトイレの問題です。この2つの問題は、絶対避けて通れない。</p> <p>以前、元駐日アメリカ大使のキャロライン・ケネディーさんを、大山にお連れしたことがあるんですけど、頂上の小屋にトイレはあるのですが、随行の方が、「This is not recommendable (このトイレは(大使)に勧められない)」ということで、ケネディーさんは残念ながら、本当はトイレに行きたくて仕方なかったと思うのですが、我慢しながら下山されたという経緯があります。ただ、単純にトイレを作ればよいということではなくて、それをどうメンテナンスしていくかということと、それからトイレを作ることによって環境にどういう影響があるのかという問題が必ず出てくるんですけども、これは人間がその地域に入って活動する限りにおいては避けて通れない話。それはやはり最優先で設置しなければならない。</p> <p>それからトレイル。これも自然に負荷をかけない形でのトレイルの作り方、場合によってはもう必要でなくなったトレイルは廃道にしていく。本当に残すべきトレイルと、メンテナンスするところと廃道にするところ、きちんと分けた上で、それにはお金がかかりますので、その資金に関しては、国立公園の入山税とは言わずに、いわゆる『入山料』を必ず課してください。ワンコイン500円でもいいからと以前からずっと環境省に申し上げているのですが、なかなか国は重い腰をあげません。なぜなら、集めたお金をどう活用するかという使い道に対して、非常に議論が起こってくるので大変なんですね。その点で、当社は、長野県にいわゆる企業版ふるさと納税というのをやらせていただいています。これは、目的がしっかりしてるわけです。</p> <p>ですから、目的税という形なので、我々は一般税の財源として納入してるわけではなくて、そのお金がどう使われるかということが明確になります。</p> <p>また、どなたかがおっしゃったように、ホテルもそれで儲けてるんだから、</p>

	<p>応分の費用負担するべきというもの、私も全くその通りだと思います。同時に利用者は、いわゆる受益者負担として利用されてる方も応分の負担をしているという、この仕組みをですね、これは多分静岡県だけでは難しい問題があると思いますので、国挙げて取り組んでいかないといけない。今後の日本の特に国立公園というところに焦点が当たってますけど、それだけではなくて、地域の自然環境に関して、守っていくとか、保全していくということに関して非常に難しいと思いますんで、ぜひこの辺のところ、静岡県から声を上げていただいて、やっていただければいいかと思います。</p> <p>色々発言を発言させて申し訳ない。</p> <p>それでは、時間の関係がありますので、これにて退席をさせていただきます。</p>
山極会長	<p>辰野理事ありがとうございました。大変貴重な御意見をいただきまして、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>今、辰野理事がおっしゃったように、お金の問題というのは非常に微妙であり、あるに越したことはないのですが、それをどう使うのかというのが、そのお金の種類によってずいぶん制約が出てきます。これを慎重に考えないといけない。</p> <p>それから、南アルプスは特にアプローチがきついと言われていて、どういう登山客や利用客を想定していくのか、それによって道の切り方（≒ルート設定）とか、トイレの設置だとか、どのくらいの数の客が見込めるのか、そういうことが随分大きな課題となってきます。この推定をどのように見込んでいくのかというのは重要な課題になるだろうと思います。</p> <p>まだ御意見を頂戴していない方、ぜひ御意見をお願いしたいと思います。</p>
鈴木理事	<p>この会は、「科学的な知見に基づき利活用を促進する」ということですがけれども、私ども山の所有者としては、あと川根本町さんもそうだと思いますけれども、利用してもらいたい目論見みたいなものが正直あります。現状、私どもで言うと千枚というところですし、川根本町さんで言うと、寸又峡からの光（テカリ）岳なのかなと想像したりするんですけども、そういう場所を活用するに当たって、どう保全していくのかというところも優先度を上げていただけるとありがたいと思います。</p> <p>また、先ほど来の話でもありますが、登山道のトイレの問題というのは、やはり大きいですし、登山道が掘れてしまう問題、浸食の問題も、喫緊の課題としてあると思いますので、全体構想というところから見ると小さな話ではありますけれども、優先順位を上げていただきたいなっていうところと、先ほど山崎理事からもありましたけど、全体構想を構築するに当たっての工程が見えてくるといいと思いました。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>全くおっしゃる通りで、地元の意見というのは十分に聞く必要があると思いますし、決定権は地元の方々にある部分が多いと思いますので、まず地元の方々の御希望、あるいは将来構想というものは十分踏まえながら、全体構想として、今おっしゃったように、工程を決めてかなければいけないです</p>

	<p>ね。1年後、2年後、3年後あるいは10年後にどこまで進むべきかというようなことが非常に重要なんだろうと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>他にいかがですか。</p>
菌田理事	<p>私は、行政を預かる身として色々な思いがあるんですけども、先ほど鈴木理事が言ったように、私どもは、ユネスコエコパーク、当然10市町村で長野県、山梨県、私どもで組んでやっているわけですけども、やはり何を我々が最も求めるかというのは、このユネスコパークを中心に街が賑わうということです。</p> <p>先ほど鈴木理事から、優先順位などのお話もあったところなんですけれども、全体構想から見ますと、もちろん学術的なこともあると思いますが、特に私からは、先の1月の理事会において、どのようにしたら南アルプスが伊豆のように、また、浜名湖のように認知されていくかといった意味合いのことを申し上げさせていただきました。その中において、タイムスケジュールのようなものをしっかり持って進めていき、さらに、大きな意味で南アルプスモデルや南アルプスみらい財団の設立に繋がっていただけたらなと思っております。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>タイムスケジュールが重要だということで、全くおっしゃる通りだと思います。</p>
佐藤副会長	<p>会長すみません。これで退席させていただきますので一言だけお願いします。</p> <p>先般開催した南アルプス学会の運営委員会で先般議論したことなんですけども、どういう研究を助成するか、どこに力点を置くかということが重要なわけですけども、本学会としては、やはり南アルプスを未来につなぐ会、それから、他の構成要素、構成団体ですね、そこからどういうことが、どういう研究が求められているのかということをよく聞いてみたいという意見が複数出てまいりました。</p> <p>先ほど、会長から『仕組み』とおっしゃったんですけども、ぜひそういう本学会に対してこういう研究を優先的に支援してもらいたいというような話を聞かせていただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
山極会長	<p>佐藤副会長にお伺いしますが、当然学会ですから、研究者の集まりだと思うんですけど、私も屋久島ソサエティを立ち上げた経緯があって、地域学会ですから、必ず地元の方々と協働して、ぜひ取組を進めていただければと思っておりますがいかがですか。</p>
佐藤副会長	<p>分かりました。</p> <p>町の研究者ですとか、高校生ですよ。現在は、高等学校のクラブ活動などでも非常に質の高いことをやっているとこがあつたりしますので、そういうところにも目を配りながら、幅広にやっていきたい。必ずしも職業研究に特化した財源である必要はないと思っております。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。それをお聞きして大変安心をいたしました。</p> <p>佐藤副会長、ここまでの御出席ありがとうございました。いただきました</p>

	御意見反映させていただきたいと思います。 他にはいかがですか。
秋道理事	<p>先ほどの松本理事の御意見に付け加えて、この南アルプスモデルですけどね。これは県の人に認識おいていただきたいのですが、私は、日本全国の山を3年ぐらいになります、調べています。すると、有名な山には、全て『信仰』があることが分かってきました。南アルプスの周辺にある身延山、富士山、御嶽山、甲斐駒岳、それから立山から白山と。ところが、南アルプスになるとそれが確認できない。南アルプスにも高い山がありますよね。私から見ると、南アルプスはほとんどブラックボックスなんです。『信仰』が確認できないんですよ。</p> <p>だからそこが、『売り』だと。つまり、環境保全だけをやったらいいいということではないんです。信仰の対象として研究しましょう、南アルプスをと守りましょうというのではないけれど、とりあえず、ブラックボックスだから、いわゆる日本の山の『目玉』になれるんです。</p> <p>沖縄の石垣島にも於茂登岳（おもとだけ）という信仰をもつ山があるんです。それから、今問題になっている知床半島もそうですし、国後島には爺爺岳（ちゃちゃだけ）というアイヌの信仰対象の山があるんです。やはり、そのようなものが、数千年の間、日本人、アイヌ、沖縄を含めて形成してきた中で、なぜ南アルプスは信仰がないのかというのが、私の問題意識なんです。それを環境保全、とりわけ鹿の問題、高山植物の問題を含めて、それから焼き畑の問題、あるいは、大井川水系の利用の問題を含めて考えたいなという感じなんです。ですから、ここは『穴』であるという認識を持っていただいたら、南アルプスモデルの隠された背景はそこにあるのです。まさにそこなんです。信仰が何もありません。なぜだ。ということが私の問題意識なんです。</p>
山極会長	藪田理事、何か理由を御存じですか。
藪田理事	<p>私も川根本町長ということで、麓の町の代表ですが、お話にありましたように、信仰と言われれば、確かにそういった信仰は無いところですよ。恐らくは、人が入れなかった所である（あつた）という意味合いが大きいのではないかと思います。</p> <p>ですから、やはり学術的には先生方皆さんに色々なお考えがあつて、そこに踏み入って学術文化研究をしていきたいということもあろうと思うんですけど、私どもは先ほども申し上げたとおり、行政を預かっているものですから、どうしても南アルプス、ユネスコエコパークを中心に私どもの町を賑やかにしたいという思いの方が強くなってしまいます。信仰については、人が入って来なかったからということなのではないかと、単純ながら思うところです。</p>
山極会長	例えば、神社があれば神社のお祭りとか、お寺があればお寺でのイベントがありますよね。そういうものは、地元にはあまりないですか。
藪田理事	地元にはあります。厳かな神事みたいのも必ずあるんですけど、南アルプスの山々に信仰がないということは私も初めて知ったものですから、私ども

	<p>の町には祭りもあれば、色々なこともあるんですが、こと上（山）を見れば、そういった神事はないということです。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。 秋道理事、要するに山岳信仰というのは、山が高すぎてなかったのかもしれないですね。</p>
秋道理事	<p>山の信仰の仏教と神道と絡んでるでしょう。それがいいんです。 ただ、大井川の水系は、民俗文化財の神楽、これがものすごく濃密なんです。だからこれは資源とは関係がないのかなと。それはまた静岡県の教育委員会の方にお聞きして、また見識を皆さんと共有したいと思います。</p>
山極会長	<p>これはよく調べると、非常に特徴が出てくるかもしれないですね。例えば山河とか、そういう人たちの昔の動向とか、そういったところも入ってくるかもしれないですね。</p>
藺田理事	<p>私どもの町にも神楽はあるんです。麓の接岨には接岨神楽があったりなど、そういった神楽はあるんです。しかし、これを伝統として行っていた方が少なくなっています。</p>
鈴木理事	<p>細かい話になってしまうかもしれませんが。 先ほど南アルプスは3県に跨がるというお話がありました。南アルプスでも伊那谷の方では、赤石講というものがありました。山梨では、鳳凰三山に薬師岳などがある通りで、信仰の対象になっていたと思います。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。 まだ御発言のない中西理事もお願いします。</p>
中西理事	<p>色々伺ってまして、環境保全したり、信仰のことを考えたりして、かつ、その利用をしていくということは、ユネスコのMAB（Man and Biosphere：人間と生物圏）そのものであって、そのプロジェクト（構想）の目的と全く一致するんです。 今お話のあった信仰のことも、例えばモンゴルでも信仰のことはすごく言われて、その地域を利活用するというのと一緒に、その信仰ということも出てきました。 ですから、ユネスコエコパークも非常に良いことなんですが、私自身、MAB関係で、ユネスコにかなり長い期間関わったもんですから、色々な情報があると思います。 それから、色々伺ってますと、結局全体まとめて2つのことが大切で、その戦略としては、特徴をどこに出すのかというモデルということもおっしゃいましたけども、ずっと人が入ってないから色々なこともあるでしょうし、信仰もあるでしょうし、それをこれから決めていくことと、あときちっとした財政基盤を持ちたいと、その2つにわかれるんじゃないかと思うんです。 それで、その結果どうするか戦術としては様々あると思います。それはクラウドファンディングとか、その後それをどのように使うのかとかなどあるんですが、せつかく行政が入ってくださってるので、普通の財団よりも非常に信頼性が高い面もありますから、エコファンディングしやすい面がすごくあるんじゃないかと思います。</p>

	<p>参考になるかどうか分からないのですが、あの福島（東日本大震災）の後に、一般の大学の先生がこれは大切だと言って、1回クリックすれば100円というのを作って、『億』を集めた人がいます。</p> <p>ですから、特徴が出ればお金も非常に集めやすくなるのかもしれませんが。そのあたりが気がついたところです。</p> <p>そういう意味では、その戦術として、やはり南アルプス学会の方で何か特徴が出ると、エコパークの方で何か今までのことがあって、そこから特徴が出るんじゃないかと。</p> <p>それから、もう1つは、先ほど説明がありましたが、一般財団法人から公益財団法人にするというのは凄いことで、お金の面では、公益になると寄附を出しやすいです。お金を出すと、控除の対象になりますから。県も色々あるでしょうけども、できるだけ早く公益財団を作っていただけると、お金を集めやすいかなと思います。</p>
山極会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>財政基盤をどう固めていくかという非常に重要な課題だと思います。</p> <p>WEB参加の高野理事。初めての御出席ですので、なかなかついていけないところもあるかもしれませんが、何か御意見がございましたら、ぜひお聞かせください。</p>
高野理事	<p>ありがとうございます。</p> <p>お伺いして、本当に様々な方面からの御意見があると思いました。今日はそれで良いのかも知れないんですが、やはり私自身が南アルプスの全体像をちゃんと理解してないなと思いながら聞いておりました。南アルプス学会が中心になって、色々な情報が出てきて、その中から南アルプスを未来につなぐ会の方からも、もっとこういう側面を知りたい、といったやりとりの中で、情報を蓄積し、そこから何を取り上げて、南アルプスモデルというものを構築していくのかを議論する。という流れかと思っていました。</p> <p>私自身は、人と自然の関わりというものに大変興味があって、もちろん生態系にも関心があるんですが、今の秋道理事のお話も聞きながら、古文書などを辿っていけば、きっと何かあるに違いないと思いながら伺っていたり、もし本当に何もなければ、むしろその理由を調べてみたいな、など、色々聞きながら思っていました。もっと長い歴史から辿っていく、それこそ人間の歴史の前に、どのようにそこができたのか、のようなどころまで含めて考えていく中で、面白いことがきっとあるんじゃないかと思って聞いてました。</p> <p>中山間地の方とも私たちは関わっているんですけど、色々な取組をして希望みたいなものが生まれたとしても、それを勝る勢いで高齢化と少子化が進んでいってるんですね。恐らくそれは日本中、様々な状況があると思いますが、そういった場所も含めて、南アルプスはものすごく財産を持っているはずなんですよね。伝統知とか在来知とか、まさに今、世界がこんなに揺れ動いてる中でこそ、価値を持っているものを、今しっかりと記録しておくことの大切さというものを日々感じているので、この南アルプスでもそういうようなことができないのかなっていうことを思っています。</p>

	<p>そういったものから、それを利活用というんでしょうか、来た人たちが学べるような、ただ消費してお金を落としてくということではなくて、お金ではない財産と一緒に作っていきけるような、そんな取組も生まれてきたらいいかなということをお願いしながら聞いておりました。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>そうですね。実際、我々は南アルプスをよく知らないですね。</p> <p>これぜひ事務局にね、我々理事の視察を計画して欲しいと思います。現地を一度皆で見に行き、その自然の様子、それから文化財の様子というのを、できれば現地の方に解説していただきながら、我々自身が、やはり知識を高める必要があるなど、今、高野理事の御意見を伺ってそう思いました。</p> <p>それから、確かに南アルプス学会は、環境関係、あるいは生態系を専門とする方が多いですけども、でもこのリストを見ますとね、13 ページですけども、招聘委員として赤坂憲雄さんが就任されている。この方は、東北学の権威ですね。それから上垣外さん。この方も比較文化学の権威ですし、南アルプス学会の副会長をされてる横山俊夫さん、この方も近世史をやっておられる文化系の方ですから、やはり今、高田理事がおっしゃった、在来知、伝統知といったものを拾い上げながら、先ほど秋道理事が提起された、なぜ信仰がないのか、そういったところをむしろ強みにして、この地域の魅力を作っていくってことも必要かもしれませんよね。</p> <p>色々御意見を伺って、なるほどなと思いました。</p> <p>最後に、尾池顧問から、大所高所から御意見をお願いします。ジオパークとかをずっと作られてる方ですので。</p>
尾池顧問	<p>最後にと言われると困るんですけど、今回、南アルプスとは一体何なのかというのがだいぶ見えてきたように思うんです。私自身は、地球科学なので、その立場から言いますと、日本列島というのは本州が中心になってますけれども、その本州が東北日本と西南日本が大きく分かれていて、その継ぎ目が、静岡を通ってるわけですね。糸魚川静岡構造線として。そこを中心に、日本列島全体をパッと見てみると、中部山岳地帯とひとくくりになるんですけども、もう少し分けてみると北アルプス、南アルプス、それから北部フォッサマグナ、南部フォッサマグナという地域が四つに分かれると思うんですね。</p> <p>それで、南北のフォッサマグナは東北日本の方の一辺沈んで泥が溜まってそれが隆起して岩盤になったという山ですし、北アルプス南アルプスの方は、元々の大陸から来たままの硬い岩盤のまま隆起しているというところなわけです。</p> <p>要するに、基本的に全て隆起地形なんですね。</p> <p>今、変動帯で、どんどんどんどん日本列島そのものが隆起していて、浸食よりも早く隆起するというので高い山が保たれてるわけです。</p> <p>そういう基本があって、その中の南アルプスというひとつのブロックを対象にも考えているという、まずそういう立場ですね。高い山が隆起地形としてあるとどういことが起こるかという、そこからどんどん日本はものすごい水が多い国ですから、川がどんどん流れてきて、それが侵食していくわ</p>

けですけれども、その途中に盆地とか平野ができて、そこに人が住むわけですね。そして最終的には、海へ流れ込んでいくというわけです。また、北アルプスの方には常願寺川というものすごい急流があって、色々な地形作りますし、南アルプスの方は、都田川から天龍川、大井川、太田川、安倍川と、いっぱい流れてきて、それぞれ違う川で遠州灘とか駿河湾に流れ込んでいき、その間に人が住んでるとこういう構造があるわけです。

それで、この南アルプスを未来につなぐ会が考えてることというのは、今回モデルが提案されてきましたけれども、頭に静岡県におけるって書いてあるんだから、これは静岡県が考えているモデルなんですね。一番下に静岡県が支えるようになってるから、お金も出してくれるというので、明らかに静岡県が構想してるモデルになってるわけです。

しかし、今お話したように、この高い地形からあちこちに水が流れていくわけですから、当然ながら山梨の方にも行くわけですね。

ですから、南アルプスを考えるときには、利害関係が全て人が絡む以上、全部の県に跨がってくるわけで、今日だいぶ議論になったのですが、そこを一体どういうふうに、この南アルプスモデルを静岡県として、どんどんどんどん発展させていくというふうに考えるのか、南アルプスに関係する地域の人全てが関係するように山梨県や長野県と将来一緒になってやろうと基本的に思っているのか。そこが一番大事な別れ道になっていて、これを早く決めないと山梨や長野との対立関係で静岡の利害を守る利活用だと考えるようになると、大変なことになってくると思っていて、最初の科学的みたいなところがすっ飛んでしまうと思うんで。

だから私としては、3県が一緒になって南アルプスというこの山体をしっかりと守るかを考えるというふうに持って行って欲しいなと思うんですが、そこを早くやらないと、段々やりにくくなってきてしまいます。発展すればするほど、他の2つの県が一体どういうことだと言ってくるようなことになって、話が通じなくなっていくと思うんですね。

ですから、地学的な背景プラス人が絡む、人間ができたから県境ができるわけであって、ウクライナと路線ロシアの国境問題と同じで、ほとんど元々は人がいなければ県境など無かったわけですけど、そこを科学的知見と言った途端に、科学者は人間ですから人が扱うようになるんですけど、そして環境保全という、『保全』というのは不遜な態度で人が守ってやろうみたいな思想があって、環境を守るわけですね。全部、人が絡んで利活用についても、結局は人が活用するわけですが、であるなら、やはり人が絡む3つの県が一つの山を一緒に見ていくという根本思想がそこにないと、まずいことになっていくんじゃないかってちょっと心配になってきます。

ですから、今のこの早い時期に2つの県と話をし、3人の知事がしっかり話し合いをして、一緒に考える方針を出していくという。方向に少し舵を切って欲しいなと、今日はそういう印象を強く持ちました。

そういう意味を持ち、南アルプス見に行というの結構だと思いますし、

	<p>私も行きたいですが、その行く前に、山体が一体どういう仕組みでできたものなのかという、人がいる前の1,600万年前に遡って、まず第一の仕組みを知った上で、それを人間がどのように使ってきたかというところで、段々と1,600万年の歴史を紐解いていく。そして、縄文時代から後にどうなったかということに入っていくというのが、本来のやり方じゃないかなという印象を持ちましたので、そこについて、山極会長と一緒に考えていただいて、南アルプス学会の問題もやっぱりそういうスタンスで、少し広く視野で見ると、静岡が中心にある面と、3県が一緒になってやる面というふうにして、きちんと認識しながら、考えていったらどうかなと、雑駁な印象ですが、そのような印象を持ちました。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。全く核心をついてるなと思いました。 事務局に聞きますが、この件について、他の県と情報交換をしていますか。</p>
事務局	<p>この件については、事前に他県にも、このような形で進めていきたいという方針を共有させていただいております。まだ今後具体的にどのようにしていくという話までは至っておりませんが、静岡県では、今後こういうことを考えていくんだということをお伝えしております。</p>
山極会長	<p>ぜひお伝えするだけではなくて、交流をしていくということを心がけていただければと思います。</p> <p>私が最初に申し上げたように、行政単位というのは、やはり壁が出来てしまいますからね。なるべく早くその壁を崩しておかないといけません。どんどん壁の内側でやってることが他の県から見ると独善的に見えてしまうということが起きますので、ぜひそうならないようによろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それから、尾池顧問がおっしゃった、南アルプスの構造体というものをきちんと理解した方が良いというお話ですが、そのとおりですね。</p> <p>ですから、理事会でも、セミナーとかWEBでもいいですから、勉強会みたいなものを少しやっていただいて、我々自身が南アルプスとは何か。ということを知りながら、ぜひ視察も混ぜていただきながら、現地へ足を運んで実態を見るということも含めて、我々自身の意識向上を図っていただければと思います。</p> <p>大体、皆さんから御意見を伺ったと思うんですが、これだけは言っておきたいということがございましたら、お聞きしておきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
小宮山理事	<p>最後にすみません。</p> <p>皆さんの話を聞いて、いつも気づきと学びになっており、ありがとうございます。</p> <p>先ほどの話を聞きまして、やはり山小屋にいても、知ると知らないのでは本当に大きな差があるなというのと、知らないことをまず知らないというのがとても勿体なくて、私もこれからたくさんを学んで生活していきたいと思っているんですけども、まず知識のベースを揃えるということが大事なのではないかと感じました。</p>

	<p>南アルプス学の、例えばオンライン講座をして、それに参加してもらって、そして為になった。それから支援したいと思ったら、例えばワンクリックで100円ですとか、そういった取組もいいかなと、今、感じました。</p> <p>例えば、その使い道としては、学術研究を光（テカリ）岳小屋で考えてみると、4ヶ月ですが、そこで生活をしたり暮らしていくというのは、まず標高2,500mちょっとのところではなかなかできないと思うんですね。ですので、例えば、私は全く素人なので、光岳小屋と大学の研究の方や大学以外の研究の方などとコラボレーションをして、環境の厳しい場所で負荷のかからない生活を研究するですとか、私は水耕栽培してみようかなと思ってるんですけども、そういう農業とか自然エネルギーを使ってどうなるかですとか、色々な分野で標高の高いところで研究ができるっていうことに活かしていけたらいいのではないかと、ちょっと今お話を聞いていて思いました。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>大変貴重なご意見だと思います。残念ながら佐藤副会長が退出してしまったのですが、それをぜひ事務局から南アルプス学会に伝えてください。</p> <p>それから、共同研究ということに関して、竹田理事、もし何かあればお願いします。</p>
竹田理事	<p>長野県の事例ですが、南アルプス食害対策協議会という官学ボラ連携の組織で活動しています。</p> <p>具体的には、伊那市役所を中心とする市町村と林野庁中部森林管理局南信森林管理署、環境省（南アルプス自然保護官事務所）、信州大学農学部が連携、協働して、高山植物をニホンジカの食害から守る進入防止柵の設置、撤去（これをシーズン開始時と終了時に実施）をボランティアの皆さんと一緒にやり、シーズン中は山小屋の管理人が保守点検を行うといった連携をしています。</p> <p>本年度も山小屋からの要望をお聞きし、新しい場所に柵を設置することになりました。</p> <p>なお、研究という側面と言うと共同研究は残念ながら、先ほどからの議論ありますように、3県が共同した研究というのは実はありません。</p> <p>例えば、山梨県であれば、山梨県の森林総合研究所。長野県であれば、私どの信州大学を中心とした研究グループ。それから、静岡県では静岡県独自、ということで、実は3県バラバラなんです</p> <p>そういったところは、先ほどから御議論がありましたように、やはり共通の認識で、できれば同じ物差しで調査、もちろんそれぞれ個々のオリジナリティは大事なのですが、全体を俯瞰するという意味でも同じ物差しが今後必要ではないかなというふうに思っております。</p> <p>（*）緑文字部分については、山極会長からの質問に正確にお答えしたいとの御意向をいただき、竹田理事から補足いただきました。</p>
山極会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ぜひとも、現地を一番よく知っている山小屋の人たちと協力しながら、</p>

	<p>色々な将来計画を練っていただければと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは時間になりましたので、これで意見は終了としたいと思います が、大変たくさんの御意見をいただいたので、これをきちんとまとめさせて いただいて、全体構想を構築するべく予定を立てたいと思います。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局からの報告事項として、本県の取組紹介を簡単にさせて いただきます。</p> <p>資料5をお開きください。</p> <p>南アルプスの魅力発信事業ということで、先ほどの南アルプスの特徴を、 色々勉強する機会をというお話もございましたので、少し付け加えさせてい ただきますと、そこに南アルプスユーチューブカレッジというものがござい ます。これは、例えば、南アルプスの地域、地形の成り立ちでありますとか、 そこに生息する動物、植物、それぞれの研究者の方に御登壇いただきまして、 講義していただき、それをユーチューブを活用し配信をさせていただいてい るものです。色々なコンテンツがありますので、お時間があります時に御覧 いただければ、基本的な成り立ちから、どのような生き物がいるのかや、ど のような植生が広がっているのかというイメージが共有されるのではない かというふうに思っております。</p> <p>続きまして、南アルプス魅力発信ツール開発事業について御説明をさせて いただきます。</p> <p>これについては、アクセス等の問題から3県を跨ぐ南アルプスにおいて、 静岡県が最も認知度が低く、利活用が進んでいないという現状や、特に子供 たちが南アルプスに触れる機会が不足しており、次代を担う世代に南アルプ スの持つ魅力を伝え、学ぶ機会が無い、さらに、その南アルプスの持つ自然 の希少性や重要性魅力を伝えることができる教育者もほぼ存在していない 状況であるという課題を克服するため、南アルプスの自然環境の保全の重要 性や魅力を伝えるとともに人々に南アルプスへの愛着や関心を醸成するほ か、誰もが南アルプスを身近に感じていただけるようなそんな取り組みを進 めていきたいということで、WEBアプリの開発を進めるというものでござ います。</p> <p>具体的には、通常のSNSでも画像投稿機能がございますけれども、希少 種などの情報をフィルタリングすることができないものですから、撮影場所 等の情報を、適宜抹消することで、登山者の方が安心して撮影した画像を自 由に投稿できる仕組みを開発し、登山者参加型の発信を行うとともに、画像 原本を、データとして登録し、これを別途管理することでデータベース化に 繋げ、希少種等の保護にも使わせていただきたいと考えております。</p> <p>一方で、次代を担う世代への環境教育的観点から学習指導要領に即した教 科教育及び環境学習プログラムを作成、実施できるシステムも搭載し、教育</p>

	<p>現場での活用も目指したいと考えております。今年度は、この環境教育に関するシステムの開発に取りかかっておりますが、コンテンツの作成につきましては、特に大学の教育学部に加え、そこに在籍する学生で、実際に教育者を目指している方に、開発チームに参画いただき、教科教育問題や環境学習プログラムの制作を通して、御自身が南アルプスを知り、将来の教育活動に生かしていただけるように、教育者の人材育成も兼ねた取組となっております。実際に、卒業論文の研究テーマとしても取り上げていただくことになっていきます。先般、第1回目となる制作チームの会合を開催し、コンテンツの大局的な方針を決定したところであり、今後は現地見学のほか、実証実験校を設け、実装に向けた検証を行うなど、授業での使用に耐えうる内容にしていくとともに、教育委員会等との連携により普及活動を推進し、最終的には全国レベルの取組に育てていきたいと考えております。</p> <p>県といたしましては、今後も南アルプスの自然環境の保全と適切な利活用、南アルプスが持つ魅力の発信について継続的に活動を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>最後に連絡事項です。令和4年度のイベントを9月26日の月曜日に予定しております。内容については、現在検討中ですが、具体的になった段階で、改めて皆様に御紹介させていただきたいと思っております。</p>
<p>司会</p>	<p>山極会長進行ありがとうございました。</p> <p>また、理事の皆様、長時間にわたる御協議ありがとうございました。</p> <p>それでは、以上をもちまして、令和4年度第1回南アルプスを未来につなぐ会理事会を終了いたします。</p> <p>本日はご多忙の中ご出席いただきありがとうございました。</p> <p>WEBにて御参加の皆様、ありがとうございました。またよろしく願いいたします。随時退出していて結構です。ありがとうございました。</p>